

「飲酒運転の代償」を自分の問題として考えましょう！



沖縄県内で実際に飲酒運転によって検挙された男性(当時40代)が、取消処分者講習受講後に提出した感想文(手記)です。

少し長いですが、まずは一読してみてください。

読んで、あなたは何を感じましたか？

私は数年前の年末、飲食店で飲酒したにもかかわらず、安易で無責任な考えで車を運転してしまい、酒気帯び運転で検挙されました。

翌日、目を覚ますと、前夜のことがどうか夢の出来事であったならと何度も思いました。

妻や子供達にはとても話すことが出来ず、職場の上司や同僚誰一人にも言えない日々が続きました。解雇されることにおびえ、愛想を尽かされて妻や子供が離れていかないかとおびえ、毎日が恐怖の日々でした。

しかし、どうとう家庭や職場にも打ち明ける日がやってきました。

どちらも最悪の結果を覚悟しましたが、最悪の結果だけは避けることができました。もちろん、いずれにも**大きな迷惑**をかけてしまったことは間違いありません。

その後は、片道7キロもある職場まで雨の日も風の日も、台風接近の嵐の日も、自転車ですずっと通いました。4歳と6歳の2人の子供は私の置かれた状況を把握していませんでしたが、まだまだ公園や遊園地などに連れて行ってほしい年頃です。

ある日の休日、妻は休日出勤で家にいません。年上の長兄が私にこう言いました。

「お父さん、どこかドライブに連れて行ってよ。どうして連れて行ってくれないの？お父さんのケチ。」

テレビを観ながら平静を装い、せがむ息子の言葉に返す言葉がありませんでした。

やがて、保育園児や幼稚園児だった子供達も、背にランドセルを背負うようになりました。

親として彼らの健やかな成長をうれしく思わないはずはありません。

しかし、**あまりにもしてあげられることが制限されるため、いつも心が痛い**のです。

彼らの無邪気な笑顔が、ある意味とても辛いのです。

ある土砂降りの雨の日でした。傘を2本持って学童保育所へ徒歩で息子を迎えに行ったときの事です。

保育士の先生に言われた言葉が胸に突き刺さりました。

「お父さん、この雨の中を歩いて帰るんですか？」

もちろん事情を知らぬ先生には悪意はありません。バケツをひっくり返したような雨の中、息子と二人でずぶ濡れになって歩く。信号待ちの車の中からは不思議そうに見つめる視線…。

ひどく惨めでした。心の中で何度も息子にすまないと思いました。

子供達はさらに大きくなり、いずれ思春期がきて、私と一緒にいる時間も減るでしょう。幼少期の思い出深く、二度と帰ってこない大切な時期に、このようなことになってしまい残念でなりません。

私の家庭や職場や友人関係は比較的平穏なものだったと思います。私はそれを一瞬で奪うような危険な行為をしたのです。思い出せばきりが無いほどいろいろなことがありました。

もう二度と、同じ過ちを繰り返すまいと思います。



飲酒運転をしない、させない、許さない



沖縄県警察本部